

昭和十五年四月九日

内閣書記官長

内閣書記官

内閣總理大臣

五

法制局長官

外務大臣

五

陸軍大臣

五

文部大臣

五

逓信大臣

五

厚生大臣

五

内務大臣

五

海軍大臣

五

農林大臣

五

鐵道大臣

五

大藏大臣

五

司法大臣

五

商工大臣

五

拓務大臣

五

別紙兩院ノ議決ヲ經タル國民優生法案

案

ヲ審査スルニ右ハ貴族院議長上奏ノ通裁可ヲ奏

去
司

請セラレ可然ト認ム

法律案

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル國民優
生法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十五年 四月三十日

内閣總理大臣

厚生大臣

法律第百七號

上奏案ノ通

法制局厚第一四號

昭和十五年三月十六日

國民優生法案

右衆議院ノ議決ヲ經タル政府提出案本院ニ於
テ可決セリ依テ御執奏相成度議院法第三十一
條ニ依リ此段申進候也

昭和十五年 三月二十六日

貴族院議長伯爵松平賴壽

内閣總理大臣米内光政殿

貴族院ハ兩院ノ議ヲ經タル
國民優生法案ノ裁可ヲ
奏請ス

昭和十五年三月二十六日

貴族院議長伯爵松平頼壽



國民優生法

第一條 本法ハ惡質ナル遺傳性疾患ノ素質ヲ有スル者ノ増加ヲ防遏スルト共ニ健全ナル素質ヲ有スル者ノ増加ヲ圖リ以テ國民素質ノ向上ヲ期スルコトヲ目的トス

第二條 本法ニ於テ優生手術ト稱スルハ生殖ヲ不能ナラシムル手術又ハ處置ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノヲ謂フ

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル疾患ニ罹レル者ハ其ノ子又ハ孫醫學的經驗上同一ノ疾患ニ罹ル處特ニ著シキトキハ本法ニ依リ優生手術ヲ受ク^ルコトヲ得但シ其ノ者特ニ優秀ナル素質ヲ併セ有スト認メラルルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一 遺傳性精神病

二 遺傳性精神薄弱

三 強度且惡質ナル遺傳性病的性格

四 強度且惡質ナル遺傳性身體疾患

五 強度ナル遺傳性畸形

四親等以内ノ血族中ニ前項各號ノ一ニ該當スル疾患ニ罹レル者ヲ各自有シ又ハ有シタル者ハ相互ニ婚姻シタル場合(届出ヲ爲サザルモ事實上婚姻關係ト同様ノ事情ニ在ル場合ヲ含ム)ニ於テ將來出生スベキ子醫學的經驗上同一ノ疾患ニ罹ル虞特ニ著シキトキ亦前項ニ同ジ
第一項各號ノ一ニ該當スル疾患ニ罹レル子ヲ有シ又ハ有シタル者ハ將來出生スベキ子醫學的經驗上同一ノ疾患ニ罹ル虞特ニ著シキトキ亦第一項ニ同ジ

第四條 前條ノ規定ニ依リ優生手術ヲ受クルコトヲ得ル者ハ優生手術ノ申請ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ本人配偶者(届出ヲ爲サザルモ事實上婚姻關係ト同様ノ事情ニ在ル者ヲ含ム以下之ニ同ジ)ヲ有スルトキハ其ノ配偶者ノ同意ヲ、^{三十歳}二十五歳ニ達セザルトキ又ハ心神耗

弱者ナルトキハ其ノ家ニ在ル父母(婚姻ニ依リ其ノ配偶者ノ家ニ入りタル者ニ在リテハ其ノ配偶者ノ父母トス以下之ニ同ジ)ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

前條ノ規定ニ依リ優生手術ヲ受クルコトヲ得ル者心神喪失者ナルトキハ優生手術ノ申請ハ前項ノ規定ニ拘ラズ其ノ家ニ在ル父母之ヲ爲スコトヲ得但シ本人配偶者ヲ有スルトキハ其ノ配偶者及其ノ家ニ在ル父母之ヲ爲スコトヲ得

第一項及前項但書ノ場合ニ於テ其ノ配偶者知レザルトキ又ハ其ノ意思ヲ表示スルコト能ハザルトキハ第一項ノ場合ニ在リテハ其ノ家ニ在ル父母ノ同意ヲ以テ配偶者ノ同意ニ代ヘ前項但書ノ場合ニ在リテハ其ノ家ニ在ル父母ノミニテ申請ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

前三項ノ規定ニ依リ其ノ家ニ在ル父母ノ同意ヲ要ストセラレ又ハ其ノ家ニ在ル父母ガ申請ヲ爲ス場合ニ於テ父母ノ一方が知レザルトキ、死亡シタルトキ、家ヲ去リタルトキ又ハ其ノ意思ヲ表示スルコト能ハザルトキハ他ノ一方ノミノ同意又ハ申請ヲ以テ足り父母共ニ知レ

ザルトキ、死亡シタルトキ、家ヲ去リタルトキ又ハ其ノ意思ヲ表示スルコト能ハザルトキハ後見人ノ、後見人知レザルトキ、ナキトキ又ハ其ノ意思ヲ表示スルコト能ハザルトキハ戸主ノ、戸主知レザルトキ、未成年者ナルトキ又ハ其ノ意思ヲ表示スルコト能ハザルトキハ親族會ノ同意又ハ申請ヲ以テ父母ノ同意又ハ申請ニ代フルモノトス但シ後見人及親族會ハ第二項ノ規定ニ依ル申請ヲ爲スコトヲ得ズ

第五條 第三條第一項ノ規定ニ依リ優生手術ヲ受クルコトヲ得ル者ニ對シ監護上ノ處置、保健上ノ指導又ハ診療ヲ爲シタル精神病院法ニ依ル精神病院(同法第七條ノ規定ニ依リ代用スル精神病院ヲ含ム)若ハ保健所ノ長又ハ命令ヲ以テ定ムル醫師ハ本人ノ同意ヲ得テ優生手術ノ申請ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ本人配偶者ヲ有スルトキハ其ノ配偶者ノ同意ヲモ、^{三十歳}二十五歳ニ達セザルトキ又ハ心神耗弱者ナルトキハ其ノ家ニ在ル父母ノ同意ヲモ得ルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ優生手術ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テ本人心神喪失者ナルトキハ其ノ家ニ在ル父母ノ同意ヲ以テ本人ノ同意ニ代フルモノトス

前條第三項及第四項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六條 前條ノ規定ニ依リ優生手術ノ申請ヲ爲スコトヲ得ル者本人ノ疾患著シク惡質ナルトキ又ハ其ノ配偶者本人ト同一ノ疾患ニ罹レルモノナルトキ等其ノ疾患ノ遺傳ヲ防遏スルコトヲ公益上特ニ必要アリト認ムルトキハ同條ノ規定ニ依ル必要ナル同意ヲ得ルコト能ハザル場合ト雖モ其ノ理由ヲ附シテ優生手術ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第七條 優生手術ノ申請ハ命令ノ定ムル所ニ依リ地方長官ニ之ヲ爲スベシ

前項ノ申請ニハ本人ノ健康診斷書及遺傳ニ關スル調査書並ニ本人(本人心神喪失者ナルトキハ其ノ家ニ在ル父母トス但シ本人配偶者ヲ有スルトキハ其ノ配偶者及其ノ家ニ在ル父母トス)ガ優生手術ガ生殖ヲ不能ナラシムルモノナルコトヲ了知シタル旨ノ醫師ノ證明書ヲ

添附スベシ

第四條第三項及第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八條 地方長官ハ優生手術ノ申請ヲ受理シタルトキハ優生手術ヲ行フベキモノト認ムルヤ否ヲ決定ス

地方長官前項ノ決定ヲ爲サントスルトキハ豫メ地方優生審査會ノ意見ヲ徵スベシ

地方長官第一項ノ決定ヲ爲シタルトキハ第四條又ハ第五條ノ規定ニ依リ優生手術ノ申請ヲ爲スコトヲ得ル者及優生手術ノ申請ニ付同意ヲ得ルコトヲ要ストセラレタル者ニ之ヲ通知スベシ

第九條 前條第三項ノ規定ニ依リ通知ヲ受クベキ者ハ同條ノ決定ニ不服アルトキハ厚生大臣ニ之ヲ申立ツルコトヲ得

前項ノ申立ハ決定ノ通知ヲ受ケタル後(通知ヲ受ケザル者ニ付テハ決定アリタル後)三十日

ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

厚生大臣宥恕スベキ事由アリト認ムルトキハ前項ノ期限經過後ニ於テモ仍之ヲ受理スルコトヲ得

第十條 厚生大臣ハ前條ノ申立ヲ受理シタル場合ニ於テ申立ヲ理由ナシト認ムルトキハ之ヲ却下シ申立ヲ理由アリト認ムルトキハ地方長官ノ決定ヲ取消シ且優生手術ヲ行フベキモノト認ムルヤ否ヲ決定ス

厚生大臣前項ノ却下又ハ取消及決定ヲ爲サントスルトキハ豫メ中央優生審査會ノ意見ヲ徵スベシ

第八條第三項ノ規定ハ第一項ノ却下竝ニ取消及決定ニ之ヲ準用ス

第十一條 第四條又ハ第五條ノ規定ニ依リ優生手術ノ申請ヲ爲スコトヲ得ル者及優生手術ノ申請ニ付同意ヲ得ルコトヲ要ストセラレタル者ハ書面又ハ口頭ヲ以テ中央優生審査會又ハ

地方優生審査會ニ對シ事實又ハ意見ヲ申述スルコトヲ得

厚生大臣又ハ地方長官ハ中央優生審査會又ハ地方優生審査會ノ審査ノ爲必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ第三條ノ規定ニ依リ優生手術ヲ受クルコトヲ得ル者ヲシテ審査會ニ出頭ノ上事實ヲ申述セシメ又ハ醫師ノ健康診斷ヲ受ケシムルコトヲ得

第十二條 中央優生審査會及地方優生審査會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 優生手術ヲ行フベキモノト認ムル決定確定シタルトキハ第三條ノ規定ニ依リ優生手術ヲ受クルコトヲ得ル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ優生手術ヲ受クベシ

優生手術ハ厚生大臣又ハ地方長官ノ命ニ依リ命令ヲ以テ定ムル醫師命令ヲ以テ定ムル場所ニ於テ之ヲ行フ

前項ノ規定ニ依リ優生手術ヲ行ヒタル醫師ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ經過ヲ地方長官ニ報告スベシ

第十四條 優生手術ヲ行フベキモノト認ムル決定確定シタル場合ニ於テ本人妊娠中ナルトキ

ハ第四條ノ規定ニ依リ優生手術ノ申請ヲ爲スコトヲ得ル者ハ同條ノ規定ニ依リ同意ヲ要ネトセラレタル者ノ同意ヲ得テ其ノ決定ヲ爲シタル厚生大臣又ハ地方長官ニ對シ妊娠中絶ノ申請ヲ爲スコトヲ得

前項ノ申請ニ基キ厚生大臣又ハ地方長官妊娠中絶ヲ行フベキモノト決定シタルトキハ本人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ妊娠中絶ヲ受クベシ

前項ノ妊娠中絶ハ妊娠三月ヲ超ユルモノナル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ズ

前條第二項及第三項ノ規定ハ第二項ノ妊娠中絶ニ之ヲ準用ス

第十五條 優生手術又ハ前條ノ妊娠中絶ニ關スル費用ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第十六條 故ナク生殖ヲ不能ナラシムル手術又ハ放射線照射ハ之ヲ行フコトヲ得ズ

第十七條 第十三條又ハ第十四條ノ規定ニ依ル場合ヲ除クノ外醫師生殖ヲ不能ナラシムル手

術若ハ放射線照射又ハ妊娠中絶ヲ行ハントスルトキハ豫メ其ノ要否ニ關スル他ノ醫師ノ意見ヲ聴取シ且命令ノ定ムル所ニ依リ豫メ行政官廳ニ届出ヅベシ但シ特ニ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ届出アリタル場合ニ於テ行政官廳必要アリト認ムルトキハ其ノ指定シタル醫師ノ意見ヲ更ニ聴取セシムルコトヲ得

第一項但書ノ場合ニ於テ届出ヲ爲サズシテ生殖ヲ不能ナラシムル手術若ハ放射線照射又ハ妊娠中絶ヲ行ヒタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ニ届出ヅベシ

第十七條 優生手術ヲ受ケタル者婚姻セントスルトキハ相手方ノ要求ニ依リ優生手術ヲ受ケタル旨ヲ通知スベシ

ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第十九條 中央優生審査會及地方優生審査會ノ委員若ハ委員タリシ者又ハ優生手術若ハ第十

四條ノ妊娠中絶ニ關スル審査若ハ施行ノ事務ニ從事シ若ハ從事シタル公務員若ハ公務員タリシ者故ナク其ノ職務上取扱ヒタルコトニ付知得シタル人ノ祕密ヲ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ズ

第二十條 第十七條第一項又ハ第三項ノ規定ニ違反シ届出ヲ爲サズ又ハ虚偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 記

井 手 参 事 官

本件修正中第十七條ニ係ルモノニ付

(一) 優生手術以外ノ醫療目的等ノ爲ニ爲サレタル生殖ヲ不能ナラシムル手術等ヲ受ケタル者トノ均衡

(二) 先天的體質其ノ他手術等ニ基カザル事由ニ由ル生殖不能ナル者トノ均衡

(三) 養子縁組ノ場合トノ均衡

(四) 民法第七百八十五條ノ解釋上ニ及ボス影響

(五) 將來ノ民法（親族法）改正ニ及ボス影響

等ニ關シ相當考慮ヲ要スベキモノアリト考ヘラル

殊ニ(四)民法第七百八十五條トノ關係ニ付テハ生殖ヲ不能ナラシムル手術ヲ受ケオル者ガ婚姻ニ際シ之ヲ相手方ニ告知セザルコトガ同條ノ規定スル詐欺ニ該當シ婚姻取消ノ事由ト爲ルヤ否ヤニ付解釋上必ズシモ定説アルニ非ザレドモ、事情ニ依リテハ取消事由ト爲リ得ベキモノト解スベケン、何レニセヨ議院修正ニ依ル第十七條ノ成立後ハ婚姻ニ際シテ生殖不能ナル事實ノ告知義務ヲ「優生手術ヲ受ケタル者ニ關スル場合」ノミニ限り「相手方ノ要求アリタル場合」ノミニ限り他ノ場合ニ於テハ告知スル義務ナク從ツテ民法第七百八十五條ノ規定ニ依ル取消事由ト爲ラザルモノトナルナラバ解釋上重要ナル結果ヲ及ボスモノト考ヘラルルモ本修正條文ハタゞ優生法中ニ於テ優生手術ヲ受ケタル

者ノ婚姻ニ付注意的ニ告知義務ヲ規定セルモノニ過ギズシテ民法第七百八十五條ノ解釋ニ對シ何等格別ノ變更ヲ加ヘタルモノト解セザルヲ可トセン(貴族院委員會ニ於ケル司法省民事局長答辯亦同趣旨ナリ)次ニ(五)將來民法(親族法)改正ニ及ボス影響ニ付テハ本來本修正條項ノ如キハ一般的問題トシテ親族法中ニ採リ上グベキ事項ト考フルヲ寧ロ至當トシ厚生省提出優生法原案中ニ於テモ規定セザリシ程ニテ本修正ノ如キ婚姻取消ノ一般の問題トツナガリテ有スル條文ノ成立ガ將來ノ民法改正案ニ如何ナル影響ヲ及ボスヤニ付テハ今後相當研究スル要アリト考ヘラル(貴族院委員會ニ於ケル司法省民事局長亦同趣旨ヲ以テ將來考究致シ度キ旨答辯ス)

第七十五回
帝國議會
貴族院

國民優生法案特別委員會議事速記錄

昭和十五年三月二十六日
(火曜日)午前十時十九分開會

○委員外議員(子爵富小路隆直君)

上
略

先ヅ第一ニ司法當局ニ御伺ヒ致シタイノデアリマスガ、衆議院ニ於キ
マシテハ本法ヲ修正致シマシテ、第十七條トシマシテ「優生手術ヲ受
ケタル者婚姻セントスルトキハ相手方ノ要求ニ依リ優生手術ヲ受ケタ
ル旨ヲ通知スベシ」ト云フ條項ヲ挿入致シタノデアリマスガ、ソレデ
相手方ノ要求ガアツタノニモ拘ラズ、其ノ旨ヲ通知シナカツタト云フ
トキニハ、相手方ハ當然離婚ナスルコトが出来ルト思ヒマスガ、ドウ

(日本標準規格B4判)

デゴザイマスカ、若シ然リトスルナラバ、民法ノドノ條文ニ根據ヲ置クノデアリマスカ、其ノ點ヲ明カニシテ置キタイト思フノデアリマス。

○政府委員（坂野千里君） 御答へ致シマス、十七條ノ規定ニ違反致シマシテ、相手方ノ要求アツタニモ拘ラズ、優生手術ヲ受ケタル旨ノ通知ヲ致サナカツタコトカラ當然民法上ノ婚姻ニ影響ガ及ブトハ考ヘテ居リマセヌ、色々考ヘマスノハ、寧ロ之ニ依ツテ詐欺ト云フ問題ガ起ルノデナйкаト云フコトガ考ヘラレマスガ、サウスレバ取消ノ問題ニナリマス、併シ此ノ規定ガアルカラ問題ニナルノデナクシテ、一般的ノ問題ニナル、ダカラ此ノ規定ガアツタガ爲ニ民法ノ離婚原因ニ影響ハナイモノト考ヘテ居リマス

○委員外議員（子爵富小路隆直君） 次ニ移リマスガ、私ハ別ニ之ヲ修正スルトカ何トカ云フ意味デ申スノデハアリマセヌガ、只今ノ條文ノ「相手方ノ要求ニ依リ」ト云フ字句ガアル爲ニ只今ノヤウナ場合ニ問題ヲ尙一層複雑困難ナラシムル虞ガアルト思ヒマスノデ、斯ウ云フ字句ハ寧ロナイ方が宜インヂヤナイカ、唯通知チスベシト云フダケノ方が宜インヂヤナイカト思ハレマスガ、是ハ如何デゴザイマセウカ

○政府委員（坂野千里君） ソレハチヨツト御答ガシニクイノデゴザイマスガ、マア私ノ考デハ是ガアリマシテモソナニハナイノヂヤナイカト思フダケデゴザイマス、ソレ以上ノコトハチヨツト遠慮サシテ

戴キマス

○委員外議員（子爵富小路隆直君）　ソレハ其ノ點ニ止メテ置キマシ
テ次ニ移リマス、甚ダ常識的ナ考ヘ方デ悉縮デアリマスガ、第十七條
ニ依リマシテ離婚ノ問題ガ發生シタ場合ニ於キマシテ色々悲劇ガ起ル
コトダラウト思フノデアリマス、マア一例ヲ舉ゲテ見マスルト、養子
ヲ貰ツタガ此ノ養子ガ手術ヲシテ居ツタト云フ譯デ、斯ウ云フ離婚ト
云フヤウナ問題ガ起ツタト云フ場合非常ニ困ルコトダト思フノデアリ
マス、斯ウ云フ場合ノ救済ハドウスレバ宜イカ、斯ウ云フコトハ其ノ
民法ノ改正ガ最近ニアルダラウト思ヒマスガ、サウ云フ場合ニ家系ノ

（日本標準規格B4判）

保全ト申シマスカ、サウ云フヤウナ意味ニ於テ何カ規定ヲ設ケル必要
ハナイカト云フヤウニ考ヘラレルノデアリマスガ、一ツ伺ツテ置キタ
イ

○政府委員（坂野千里君）　民法改正ヲ只今ヤツテ居ルノデゴザイマ
スガ、其ノ中ニハ此ノ點ハマダ考ヘテ居リマセヌデゴザイマス、此ノ
法律ガ出來マスレバ十分考ヘナケレバナラヌノヂヤナイカト思ヒマス
ガ、ソレヲ直グ入レルカドウカト云フコトハ今御答ガ出來ナイノデア
リマス

國民優生法案帝國議會へ提出
件

右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和十五年三月八日

内閣總理大臣米内光政

(日本標準規格B4判)

厚甲 二

三月八日

昭和十五年三月六日 内閣書記官長

内閣書記官

内閣總理大臣 山

法制局長官

外務大臣

山

陸軍大臣

西

文部大臣

山

逓信大臣

東

厚生大臣

我

内務大臣

永

海軍大臣

西

農林大臣

山

鐵道大臣

山

大藏大臣

雄

司法大臣

山

商工大臣

山

拓務大臣

山

別紙 厚生大臣 請議優生法

案

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

法制局

閣議決定帝國議會ニ提出セラレ可然ト認ム

法律案

呈原附屬ノ通

國民優生法案

右

勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス

昭和九年 三月 八日 衆、

内閣總理大臣

厚生大臣

主 任 專 一 部 門 協 助 局 長

企 業 上 中 第 三 卷

四月十五日

企鵝總機竹內町



內閣總理大臣 內 幸 救 救

漫筆法名二編スル件

軍主大臣等奉命去後ニ寸民族總士方實ノ大綱ヲ要スルニ右ハ
下ノ事ニ整ミ人門増殖上於タル所甚豊事素所ノ街止ニ資セン
スルモノニシテ其大要者ナル旨實ト被思候ニ寸事ノ通達書并定
相成可矣本院官制第一條第一項第二號ニ依リ此段上申候

内

法制局厚第一四號
昭和十五年二月十二日

此ノ件關係主任官
厚生書記官 床 次 徳 二

井手

厚生省發豫第九號

優生法制定ノ件

現下ノ時局ニ鑑ミ惡質ナル遺傳性疾患ノ素質ヲ有スル國民ノ増加ヲ防遏スルト共ニ健全ナル素質ヲ有スル國民ノ増加ヲ圖リ以テ國民素質ノ向上ヲ期スル爲優生法案ヲ第七十五議會ニ提出セントス
右閣議ヲ請フ

昭和十五年二月十日

厚生大臣 吉 田



内閣總理大臣 米 内 光 政 殿

國民優生法

第一條 本法ハ

ノ増加ヲ防遏スルト共ニ健全ナル素質ヲ有スル者ノ増加ヲ圖リ、以テ國民素質ノ向上ヲ期スルコトヲ目的トス

第二條 本法ニ於テ優生手術ト稱スルハ生殖ヲ不能ナラシムル手術又ハ處置ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノヲ謂フ

トヲ得但シ其ノ者特ニ優秀ナル素質ヲ併セ有スト認メラルルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一 遺傳性精神病

二 遺傳性精神薄弱

國民優生法

第一條 本法ハ、
ノ増加ヲ防遏スルト共ニ健全ナル素質ヲ有スル者ノ増加ヲ圖リ、以テ國民素質、向上ヲ期スルコトヲ目的トス

第二條 本法ニ於テ優生手術ト稱スルハ生殖ヲ不能ナラシムル手術又ハ處置ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノヲ謂フ

トヲ得但シ其ノ者特ニ優秀ナル素質ヲ併セ有スト認メラルルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一 遺傳性精神病

二 遺傳性精神薄弱

國民優生法

第一條 本法ハ、

、 、 、 、 、 惡質ナル遺傳性疾患ノ素質ヲ有スル者、

ノ育リノ方途スレハ、ニ適合トレ得テ育ミスレハ、ノ育リヲ圖リ、以テ國人ト

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル疾患ニ罹レル者、其ノ子又ハ孫醫學的經驗上同一

ノ疾患ニ罹ル虞特ニ著シキトキハ、 、 、 、 本法ニ依リ優生手術ヲ受ケコ

トヲ得但シ其ノ者特ニ優秀ナル素質ヲ併セ有スト認メラルルトキハ此ノ限ニ在

ラズ

一 遺傳性精神病

二 遺傳性精神薄弱

三 強度且惡質ナル遺傳性病的性格

四 強度且惡質ナル遺傳性身體疾患

五 強度ナル遺傳性畸形

四親等以内ノ血族中ニ前項各號ノ一ニ該當スル疾患ニ罹レル者ヲ各自有シ又ハ有シタル者相互ニ婚姻シタル場合(届出ヲ爲サザルモ事實上婚姻關係ト同様キ

トキ亦前項ニ同ジ

第一項各號ノ一ニ該當スル疾患ニ罹レル子ヲ有シ又ハ有シタ出生スベキ子醫學的經驗上同一ノ疾患ニ罹ル處特ニ著シキトキ亦第一項ニ同ジ

第四條 前條ノ規定ニ依リ優生手術ヲ受クルコトヲ得ル者ハ優生手術ノ申請ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ本人配偶者(届出ヲ爲

サザルモ事實上婚姻關係ト同様ノ事情ニ在ル者ヲ含ム以下之ニ同ジ)ヲ有スルトキハ其ノ配偶者ノ同意ヲ、二十五歳ニ達セザルトキ又ハ心神耗弱者ナルトキハ其ノ家ニ在ル父母(婚姻ニ依リ其ノ配偶者ノ家ニ入りタル者ニ在リテハ其ノ配偶者ノ父母トス以下之ニ同ジ)ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

前條ノ規定ニ依リ優生手術ヲ受クルコトヲ得ル者心神喪失者ナルトキハ優生手術ノ申請ハ前項ノ規定ニ拘ラズ其ノ家ニ在ル父母之ヲ爲スコトヲ得但シ本人配偶者ヲ有スルトキハ其ノ配偶者及其ノ家ニ在ル父母之ヲ爲スコトヲ得

第一項及前項但書ノ場合ニ於テ其ノ配偶者知レザルトキ又ハ其ノ

三 強度且惡質ナル遺傳性病的性格

四 強度且惡質ナル遺傳性身體疾患

五 強度ナル遺傳性畸形

四親等以内ノ血族中ニ前項各號ノ一ニ該當スル疾患ニ罹レル者ヲ各自有シ又ハ

事情ニ在ル場合ヲ含ムニ於テ將來出生スベキ子醫學的經驗上同一ノ疾患ニ罹ル處特ニ著シキ

トキ亦前項ニ同ジ

第一項各號ノ一ニ該當スル疾患ニ罹レル子ヲタル者ハ將來出生スベキ子醫學的經驗上同一ノ疾患ニ罹ル處特ニ著シキトキ亦第一項ニ同ジ

第四條 前條ノ規定ニ依リ優生手術ヲ受クルコトヲ得ル者ハ優生手術ノ申請ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ本人配偶者（届出ヲ爲

サザルモ事實上婚姻關係ト同様ノ事情ニ在ル者ヲ含ム以下之ニ同ジ）ヲ有スルトキハ其ノ配偶者ノ同意ヲ、二十五歳ニ達セサルトキ又ハ心神耗弱者ナルトキハ其ノ家ニ在ル父母（婚姻ニ依リ其ノ配偶者ノ家ニ入りタル者ニ在リテハ其ノ配偶者ノ父母トス以下之ニ同ジ）ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

前條ノ規定ニ依リ優生手術ヲ受クルコトヲ得ル者心神喪失者ナルトキハ優生手術ノ申請ハ前項ノ規定ニ拘ラス其ノ家ニ在ル父母之ヲ就スコトヲ得但シ本人配偶者ヲ有スルトキハ其ノ配偶者及其ノ家ニ在ル父母之ヲ爲スコトヲ得

第一項及前項但書ノ場合ニ於テ其ノ配偶者知レサルトキ又ハ其ノ

意思ヲ表示スルコト能ハザルトキハ第一項ノ場合ニ在リテハ其ノ家ニ在ル父母ノ同意ヲ以テ配偶者ノ同意ニ代ヘ前項但書ノ場合ニ在リテハ其ノ家ニ在ル父母ノミニテ申請ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

前三項ノ規定ニ依リ其ノ家ニ在ル父母ノ同意ヲ要ストセラレ又ハ其ノ家ニ在ル父母ガ申請ヲ爲ス場合ニ於テ父母ノ一方ガ知レザルトキ、死亡シタルトキ、家ヲ去リタルトキ又ハ其ノ意思ヲ表示スルコト能ハザルトキハ他ノ一方ノミノ同意又ハ申請ヲ以テ足り父母共ニ知レザルトキ、死亡シタルトキ、家ヲ去リタルトキ又ハ其ノ意思ヲ表示スルコト能ハザルトキハ後見人ノ、後見人知レザル

トキ、ナキトキ又ハ其ノ意思ヲ表示スルコト能ハザルトキハ戸主ノ、戸主知レザルトキ、未成年者ナルトキ又ハ其ノ意思ヲ表示スルコト能ハザルトキハ親族會ノ同意又ハ申請ヲ以テ父母ノ同意又ハ申請ニ代フルモノトス但シ後見人及親族會ハ第二項ノ規定ニ依ル申請ヲ爲スコトヲ得ズ

第五條 第三條第一項ノ規定ニ依リ優生手術ヲ受クルコトヲ得ル者ニ對シ監護上ノ保護、保護上ノ指導又ハ診療ヲ爲シタル精神病院法ニ依ル精神病院（同法第七條ノ規定ニ依リ代用スル精神病院ヲ含ム）若ハ保護所ノ長又ハ命令ヲ以テ定ムル醫師ハ本人ノ同意ヲ得テ優生手術ノ申請ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ本人配偶者ヲ

有スルトキハ其ノ配偶者ノ同意ヲモ、二十五歳ニ達セザルトキ又ハ心神弱者ナルトキハ其ノ家ニ在ル父母ノ同意ヲモ得ルコトヲ要ス
前項ノ規定ニ依リ優生手術ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テ本人心神喪失者ナルトキハ其ノ家ニ在ル父母ノ同意ヲ以テ本人ノ同意ニ代フルモノトス

前條第三項及第四項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

爲スコトヲ得

第七條 優生手術ノ申請ハ命令ノ定ムル所ニ依リ地方長官ニ之、
ベシ

前項ノ申請ニハ本人、
、
、
、
、
ノ健康診斷書及遺傳調查書並本人（本人

但シ本人配偶者ヲ有スルトキハ其ノ
ルノ醫師ノ證明書ヲ添附スベシ

第四條第三項及第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八條 地方長官ハ優生手術ノ申請ヲ受理シタルトキハ優生手術ヲ行フベキモノト認ムルヤ否ヲ決定ス

地方長官前項ノ決定ヲ爲サントスルトキハ豫メ地方優生審査會ノ意見ヲ徵スベシ

地方長官第一項ノ決定ヲ爲シタルトキハ第四條又ハ第五條ノ規定ニ依リ優生手術ノ申請ヲ爲スコトヲ得ル者及優生手術ノ申請ニ付同意ヲ得ルコトヲ要ストセラレタル者ニ之ヲ通知スベシ

第六條 前條ノ規定ニ依リ優生手術ノ申請ヲ爲スコトヲ得ル者本人、
、ノ疾患著シク惡質ナルトキ又ハ其ノ配偶人ト同一ノ疾患ニ罹レルモノナル
トキ等其ノ疾患ノ遺傳ヲ防遏スルコトヲ公益上特ニ必要アリト認ムルトキハ
條ノ規定ニ要ナル同意ヲ得ルコト能ハザル場合ト雖モ其ノ理由ヲ附シテ申請ヲ
爲スコトヲ得

第七條 優生手術ノ申請ハ命令ノ定ムル所ニ依リ地方長官ニ之ヲ爲スベシ
前項ノ申請ニハ本人、
、ノ健康診斷書、
調査書並本人（本人

其ノ配偶者及其ノ家ニ在ル手術ガ生殖ヲ不能ナラシムルノ醫師ノ證明書ヲ添附スベシ

第四條第三項及第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八條 地方長官ハ優生手術ノ申請ヲ受理シタルトキハ優生手術ヲ
行フベキモノト認ムルヤ否ヲ決定ス

地方長官前項ノ決定ヲ爲サントスルトキハ豫メ地方優生審査會ノ
意見ヲ徵スベシ
地方長官第一項ノ決定ヲ爲シタルトキハ第四條又ハ第五條ノ規定
ニ依リ優生手術ノ申請ヲ爲スコトヲ得ル者及優生手術ノ申請ニ付
同意ヲ得ルコトヲ要ストセラレタル者ニ之ヲ通知スベシ

第六條 前條ノ規定ニ依リ優生手術ノ申請ヲ爲スコトヲ得ル者本人、
、ノ疾患著シク惡質ナルトキ又ハ其ノ配偶人ト同一ノ疾患ニ罹レルモノナル
トキ等其ノ疾患ノ遺傳ヲ防遏スルコトヲ公益上特ニ必要アリト認ムルトキハ
規定ニ依ル必要ナル同意ヲ得ルコト能ハザル場合ト雖モ其ノ理由ヲ附シテ申請ヲ
爲スコトヲ得

第七條 優生手術ノ申請ハ命令ノ定ムル所ニ依リ地方長官ニ之ヲ爲スベシ
前項ノ申請ニハ本人、
、ノ健康診斷書、
調査書並本人（本人

其ノ家ニ在ル父母トス

ガ優生手術ガ生殖ヲ不能ナラシムルノ醫師ノ證明書ヲ添附スベシ

其ノ家ニ在ル父母トス

第四條第三項及第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八條 地方長官ハ優生手術ノ申請ヲ受理シタルトキハ優生手術ヲ
行フベキモノト認ムルヤ否ヲ決定ス

地方長官前項ノ決定ヲ爲サントスルトキハ豫メ地方優生審査會ノ
意見ヲ徴スベシ

地方長官第一項ノ決定ヲ爲シタルトキハ第四條又ハ第五條ノ規定
ニ依リ優生手術ノ申請ヲ爲スコトヲ得ル者及優生手術ノ申請ニ付
同意ヲ得ルコトヲ要ストセラレタル者ニ之ヲ通知スベシ

第九條 前條第三項ノ規定ニ依リ通知ヲ受クベキ者ハ同條ノ決定ニ不服アルトキハ厚生大臣ニ之ヲ申立ツルコトヲ得

前項ノ申立ハ決定ノ通知ヲ受ケタル後（通知ヲ受ケザル者ニ付テハ決定アリタル後）三十日ヲ経過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ
厚生大臣有恕スベキ事由アリト認ムルトキハ前項ノ期限經過後ニ於テモ仍之ヲ受理スルコトヲ得

第十條 厚生大臣ハ前條ノ申立ヲ受理シタル場合ニ於テ申立ヲ理由ナシト認ムルトキハ之ヲ却下シ申立ヲ理由アリト認ムルトキハ地方長官ノ決定ヲ取消シ且優生手術ヲ行フベキモノト認ムルヤ否ヲ決定ス

厚生大臣前項ノ却下又ハ取消及決定ヲ爲サントスルトキハ豫メ中央優生審査會ノ意見ヲ徵スベシ

第八條第三項ノ規定ハ第一項ノ却下竝ニ取消及決定ニ之ヲ準用ス
第十一條 第四條又ハ第五條ノ規定ニ依リ優生手術ノ申請ヲ爲スコトヲ得ル者及優生手術ノ申請ニ付同意ヲ得ルコトヲ要ストセラレタル者ハ書面又ハ口頭ヲ以テ中央優生審査會又ハ地方優生審査會ニ對シ事實又ハ意見ヲ申述スルコトヲ得

厚生大臣又ハ地方長官ハ中央優生審査會又ハ地方優生審査會ノ審査ノ爲必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ第三條ノ規定ニ依リ優生手術ヲ受クルコトヲ得ル者ヲシテ審査會ニ出頭ノ

上事實ヲ申述セシメ又ハ醫師ノ健康診断ヲ受ケシムルコトヲ得

第十二條 中央優生審査會及地方優生審査會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 優生手術ヲ行フベキモノト認ムル決定確定シタルトキハ第三條ノ規定ニ依リ優生手術ヲ受クルコトヲ得ル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ優生手術ヲ受クベシ

優生手術ハ厚生大臣又ハ地方長官ノ命ニ依リ命令ヲ以テ定ムル醫師命令ヲ以テ定ムル場所ニ於テ之ヲ行フ

前項ノ規定ニ依リ優生手術ヲ行ヒタル醫師ハ命令ノ定ムル所ニ

依リ其ノ經過ヲ地方長官ニ報告スベシ

第十四條 優生手術ヲ行フベキモノト認ムル決定確定シタル場合ニ於テ本人妊娠中ナルトキハ第四條ノ規定ニ依リ優生手術ノ申請ヲ爲スコトヲ得ル者ハ同條ノ規定ニ依リ同意ヲ要ストセラレタル者ノ同意ヲ得テ其ノ決定ヲ爲シタル厚生大臣又ハ地方長官ニ對シ妊娠中絶ノ申請ヲ爲スコトヲ得

前項ノ申請ニ基キ厚生大臣又ハ地方長官妊娠中絶ヲ行フベキモノト決定シタルトキハ本人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ妊娠中絶ヲ受クベシ

前項ノ妊娠中絶ハ妊娠三月ヲ起エルモノナル場合ニ於テハ

之ヲ行フコトヲ得ズ

前條第二項及第三項ノ規定ハ第二項ノ妊娠中絶ニ之ヲ準用ス

第十五條 優生手術又ハ前條ノ妊娠中絶ニ關スル費用ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第十六條 故ナク生殖ヲ不能ナラシムル手術又ハ放射線照射ハ之ヲ行フコトヲ得ズ

第十七條 第十三條又ハ第十四條ノ規定ニ依ル場合ヲ除クノ外醫師生殖ヲ不能ナラシムル手術若ハ放射線照射又ハ妊娠中絶ヲ行ハントスルトキハ豫メ其ノ要否ニ關スル他ノ醫師ノ意見ヲ聽取シ且命令ノ定ムル所ニ依リ豫メ行政官廳ニ届出ヅベシ但シ特ニ急施ヲ要

スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ届出アリタル場合ニ於テ行政官廳必要アリト認ムルトキハ其ノ指定シタル醫師ノ意見ヲ更ニ聽取セシムルコトヲ得

第一項但書ノ場合ニ於テ届出ヲ爲サズシテ生殖ヲ不能ナラシムル手術若ハ放射線照射又ハ妊娠中絶ヲ行ヒタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ニ届出ヅベシ

第十八條 第十六條ノ規定ニ違反シ生殖ヲ不能ナラシムル手術又ハ放射線照射ヲ行ヒタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス

國民優生法
省省

第十九條 中央優生審査會及地方優生審査會ノ委員若ハ委員タリシ者又ハ優生手術若ハ第十四條ノ妊娠中絶ニ關スル審査若ハ施行ノ事務ニ從事シ若ハ從事シタル公務員若ハ公務員タリシ者故ナク其ノ職務上取扱ヒタルコトニ付知得シタル人ノ秘密ヲ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ズ

第二十條 第十七條第一項又ハ第三項ノ規定ニ違反シ届出ヲ爲サズ又ハ虚偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

國民優生法案理由書

現下ノ時局ニ鑑ミ人的資源ヲ擴充強化シ國民將來ノ發展ヲ期スル爲ニハ惡質ナル遺傳性疾患ノ素質ヲ有スル者、ノ増加ヲ防遏スルト共ニ健全ナル素質ヲ有スル者、ヲ増加シ以テ國民素質ノ向上ヲ圖ル爲國民優生法案ヲ提出スル所以ナリ

第十九條 中央優生審査會及地方優生審査會ノ委員若ハ委員タリシ者又ハ優生手術若ハ第十四條ノ妊娠中絶ニ關スル審査若ハ施行ノ事務ニ從事シ若ハ從事シタル公務員若ハ公務員タリシ者故ナク其ノ職務上取扱ヒタルコトニ付知得シタル人ノ祕密ヲ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ズ

第二十條 第十七條第一項又ハ第三項ノ規定ニ違反シ届出ヲ爲サズ又ハ虚偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

國民優生法案理由書

現下ノ時局ニ鑑ミ人的資源ヲ擴充強化シ國民將來ノ發展ヲ期スル爲ニハ惡質ナル遺傳性疾患ノ素質ヲ有スル者、ノ増加ヲ防遏スルト共ニ健全ナル素質ヲ有スル者、ヲ増加シ以テ國民素質ムヲ制定スルノ要アリ是レ本、案ヲ提出スル所以ナリ

精神病院法

参照

●精神病院法

大正八年三月二十七日
法律第二十五號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル精神病院法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

精神病院法

(總理内務
大臣副署)

第一條 主務大臣ハ北海道又ハ府縣ニ對シ精神病院ノ設置ヲ命スルコトヲ得

第二條 地方長官ハ左ノ各條ノ一ニ該當スル精神病患者ヲ前條ノ規定ニ依リ設置スル精神病院ニ入院セシムルコトヲ得

一 精神病患者監護法ニ依リ市町村長ノ監護スヘキ者

二 罪ヲ犯シタル者ニシテ司法官廳特ニ危險ノ虞アリト認ムルモノ

三 癡癡ノ途ナル者

四 前各條ニ掲グル者ノ外地方長官特ニ入院ヲ必要ト認ムル者

前項ノ規定ニ依リ精神病患者ヲ入院セシムルニハ命令ノ定ムル所ニ依リ醫師ノ診斷アルコトヲ要ス

第三條 國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ第一條ノ規定ニ依リ設置スル精神病院ノ經費ニ對シ六分ノ一乃至二分ノ一ヲ補助ス

第四條 第一條ノ規定ニ依リ設置スル精神病院ノ長ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ入院者ニ對シ監護上必要ナル處置ヲ行フコトヲ得

第五條 地方長官ハ入院者ヨリ入院費ノ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得地方長官入院者ヨリ徵收スルコトヲ得スト認ムルトキハ其ノ扶養義務者ヨリ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項費用ノ徵收方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム



精神科
衛生
監督

第六條 道府縣ニ於テ設置スル精神病院ニシテ地方長官ノ具申ニ依リ主務大臣ニ於テ適當ト認ムルモノハ第一條ノ規定ニ依リ設置スルモノト看做ス

第七條 主務大臣必要ト認ムルトキハ期間ヲ指定シ適當ト認ムル公私立精神病院ヲ其ノ承諾ヲ得テ第一條ノ規定ニ依リ設置スル精神病院ニ代用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第二條乃至第五條ノ規定ヲ準用ス

第八條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ執行ニ關シ行政官廳ノ處分ニ不服アル者ハ訴訟スルコトヲ得行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ侵害セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ各條ニ付之ヲ定ム

(大正八年勅令第三百六十五號ヲ以テ第七條ノ規定ハ同年八月十日ヨリ施行シ第一條乃至第五條及第八條ノ規定ハ第七條ノ規定ノ施行ニ必要ナル範圍内ニ於テ同日ヨリ施行)

(大正九年勅令第四百九十號ヲ以テ第六條ノ規定ハ同年十月二十五日ヨリ施行シ第一條乃至第五條及第八條ノ規定ハ第六條ノ規定ノ施行ニ必要ナル範圍内ニ於テ同日ヨリ施行)

(大正十二年勅令第三百二十四號ヲ以テ未施行ノ部分ハ同年七月一日ヨリ施行)

日本標準規格四號(十二行全)



參照

保健所法

昭和十二年四月五日
法律第四十二號

衆帝國議會ノ協賛ヲ經テル保健所法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

(總理、內務大臣副署)

保健所法

第一條 保健所ハ國民ノ體位ヲ向上セシムル爲メ地方ニ於テ保健上必要ナル指導ヲ爲ス所トス

秘

優 生 法 案

第一條 本法ハ國民素質ノ向上ヲ圖ル爲惡質ナル遺傳性疾患ノ素質ヲ有スル國民ノ増加ヲ防遏ス
ルト共ニ健全ナル素質ヲ有スル國民ノ増加ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル疾患ニ罹レル者其ノ子又ハ孫醫學的經驗上同一ノ疾患ニ罹ル虞
極メテ大ナルトキハ其ノ者ニ對シ本法ニ依リ優生手術ヲ行フコトヲ得但シ其ノ者特ニ優秀ナル
素質ヲ併セ有スト認メラルルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一 遺傳性精神病

二 遺傳性精神薄弱

日本標準規格四頁(十二行全)

三 強度且惡質ナル遺傳性病的性格

四 強度且惡質ナル遺傳性身體疾患

五 強度ナル遺傳性畸形

四親等以内ノ血族中ニ前項各號ノ一ニ該當スル疾患ニ罹レル者ヲ各自有スル者其ノ間ニ於ケル婚姻ニ依リ其ノ子醫學的經驗上同一ノ疾患ニ罹ル虞極メテ大ナルトキ亦前項ニ同ジ

第一項各號ノ一ニ該當スル疾患ニ罹レル子ヲ有スル者將來出生スベキ子醫學的經驗上同一ノ疾患ニ罹ル虞極メテ大ナルトキ亦第一項ニ同ジ

第三條 本法ニ依ル優生手術ハ命令ヲ以テ定ムル生殖ヲ不能ナラシムル方法ニ依リ之ヲ行フ

第四條 何人ヲ問ハズ生殖ヲ不能ナラシムル手術又ハ放射線照射ハ之ヲ受ケ又ハ行フコトヲ得ズ但シ本法若ハ其ノ他ノ法令ノ規定ニ依リ之ヲ受ケ若ハ行フ場合又ハ生命ニ對スル危險ヲ防止スル爲醫師ヨリ之ヲ受ケ若ハ醫師本人ノ同意ヲ得テ之ヲ行フ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第五條 優生手術ヲ受ケントスル者ハ其ノ配偶者（届出ヲ爲サザルモ事實上婚姻關係ト同様ナル關係ニ在ル者ヲ含ム以下之ニ同ジ）ノ同意ヲ得テ其ノ申請ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ者十八歳未満ナルトキ又ハ心神喪失者ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ申請ヲ爲サントスル者二十五歳以下ナルトキ又ハ心神耗弱者ナルトキハ其ノ申請ニ付其ノ家ニ在ル父（婚姻ニ依リ其ノ配偶者ノ家ニ入りタル者ニ在リテハ其ノ配偶者ノ父トス以下之ニ同ジ）ノ同意ヲモ得ルコトヲ要ス

優生手術ヲ受クベキ者十八歳未満ナルトキ又ハ心神喪失者ナルトキハ其ノ配偶者及其ノ家ニ在ル父ヨリ其ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第一項又ハ前項ノ場合ニ於テ其ノ配偶者知レザルトキ又ハ其ノ意思ヲ表示スルコト能ハザルトキハ其ノ家ニ在ル父ノ同意又ハ申請ヲ以テ足ル

前三項ノ場合ニ於テ其ノ家ニ在ル父トアルハ父知レザルトキ、死亡シタルトキ、家ヲ去リタルトキ又ハ其ノ意思ヲ表示スルコト能ハザルトキハ其ノ家ニ在ル母（婚姻ニ依リ其ノ配偶者ノ家ニ入リタル者ニ在リテハ其ノ配偶者ノ母トス）トシ其ノ家ニ在ル父母共ニ知レザルトキ、死亡シタルトキ、家ヲ去リタルトキ又ハ其ノ意思ヲ表示スルコト能ハザルトキハ戸主トシ戸主知レザルトキ又ハ其ノ意思ヲ表示スルコト能ハザルトキハ親族會トス

第六條 優生手術ノ申請ハ前條ノ規定ニ依ルノ外精神病院法ニ依ル精神病院、官公立ノ少年教護院、矯正院、若ハ刑務所ノ長、保健所ノ長又ハ命令ヲ以テ定ムル醫師ヨリ優生手術ヲ受クベキ者及其ノ配偶者ノ同意ヲ得テ之ヲ爲スコトヲ得但シ第二條第二項及第三項ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依リ申請ヲ爲ス場合ニ於テ優生手術ヲ受クベキ者二十五歳以下ナルトキ又ハ心神耗弱者ナルトキハ前項ノ同意ノ外其ノ家ニ在ル父ノ同意ヲモ得ルコトヲ要ス

第一項ノ規定ニ依リ申請ヲ爲ス場合ニ於テ優生手術ヲ受クベキ者十八歳未満ナルトキ又ハ心神喪失者ナルトキハ其ノ配偶者及其ノ家ニ在ル父ノ同意ヲ得ルコトヲ以テ足ル

第一項ノ場合ニ於テハ前條第四項ノ規定ヲ、第二項ノ場合ニ於テハ同條第五項ノ規定ヲ、第三項ノ場合ニ於テハ同條第四項及第五項ノ規定ヲ準用ス

第七條 前條ノ規定ニ依リ優生手術ノ申請ヲ爲スコトヲ得ル者優生手術ヲ受クベキ者ノ疾患著シク惡質ナルトキ又ハ其ノ配偶者亦同一ノ疾患ニ罹レルモノナルトキ等其ノ疾患ノ遺傳ヲ防遏スルコトヲ公益上特ニ必要アリト認ムルトキハ本法ニ依リ必要ナル同意ヲ得ルコト能ハザル場合ト雖モ其ノ理由ヲ附シテ申請ヲ爲スコトヲ得

第八條 優生手術ノ申請ハ命令ノ定ムル所ニ依リ地方長官ニ之ヲ爲スベシ

前項ノ申請ニハ優生手術ヲ受クベキ者ノ健康診斷書、遺傳調査書及本人（本人十八歳未滿ナルカ又ハ心神喪失者ナルトキハ其ノ配偶者及其ノ家ニ在ル父トス）ガ優生手術ノ結果ニ付了知シ居ル旨ノ醫師ノ證明書ヲ添附スベシ

前項ノ場合ニ於テハ第五條第四項及第五項ノ規定ヲ準用ス

第九條 優生手術ヲ行フヲ適當トスルヤ否ヲ審査セシムル爲中央優生審査會及地方優生審査會ヲ置ク

中央優生審査會及地方優生審査會ノ組織ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 優生手術ノ申請アリタルトキハ地方長官ハ地方優生審査會ノ意見ヲ聽キ優生手術ヲ行フベキモノト認ムルヤ否ヲ決定ス

第十一條 第五條及第六條ノ規定ニ依リ優生手術ノ申請ヲ爲スコトヲ得ル者又ハ優生手術ノ申請ニ付同意ヲ得ルコトヲ要ストセラレタル者ハ前條ノ決定ニ對シ其ノ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ厚生大臣ニ抗告スルコトヲ得

第十二條 前條ノ抗告アリタルトキハ厚生大臣ハ中央優生審査會ノ意見ヲ聽キ抗告ヲ理由ナシト

八

スルトキハ之ヲ却下シ抗告ヲ理由アリトスルトキハ地方長官ノ決定ヲ取消シ更ニ優生手術ヲ行フベキモノト認ムルヤ否ヲ決定ス

第十三條 中央優生審査會及地方優生審査會ハ審査ノ爲必要アリト認ムルトキハ優生手術ヲ受クベキ者若ハ參考人ニ出頭ヲ命ジ事實ノ供述ヲ爲サシメ又ハ優生手術ヲ受クベキ者ノ健康診斷ヲ爲スコトヲ得

第五條及第六條ノ規定ニ依リ優生手術ノ申請ヲ爲スコトヲ得ル者又ハ優生手術ノ申請ニ付同意ヲ得ルコトヲ要ストセラレタル者ハ書面又ハ口頭ヲ以テ中央優生審査會又ハ地方優生審査會ニ對シ事實ノ供述ヲ爲シ又ハ意見ヲ述ブルコトヲ得

第十四條 優生手術ハ優生手術ヲ行フベキモノト認ムル決定確定シタル後厚生大臣又ハ地方長官ノ命令ニ依リ之ヲ行フ

優生手術ヲ行フ醫師及場所ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 第七條ノ規定ニ依ル優生手術ノ申請ニ對シ優生手術ヲ行フベキモノト認ムル決定確定シタルトキハ厚生大臣又ハ地方長官ハ第六條ノ規定ニ依リ優生手術ノ申請ニ付同意ヲ得ルコトヲ要ストセラレタル者ノ意思ニ反スル場合ト雖モ優生手術ヲ行フコトヲ得

第十六條 優生手術ヲ受クベキ者優生手術ヲ行フベキモノト認ムル決定確定シタル場合ニ於テ妊娠中ナルトキハ第五條ノ規定ニ依リ申請ヲ爲スコトヲ得ル者ノ申請ニ依リ其ノ者ニ對シ妊娠ヲ

中絶スルコトヲ得但シ妊娠三月ヲ超エタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一〇

第十七條 本法ニ依リ優生手術又ハ妊娠中絶ヲ行ヒタル醫師ハ其ノ手術又ハ處置後命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ經過ヲ地方長官ニ報告スベシ

第十八條 中央優生審査會及地方優生審査會ニ關スル費用竝ニ本法ニ依ル優生手術又ハ妊娠中絶ノ費用ハ國庫ノ負擔トス

第十九條 醫師生命ニ對スル危險ヲ防止スル爲生殖ヲ不能ナラシムル手術若ハ放射線照射又ハ妊娠中絶ヲ行ハントスルトキハ豫メ其ノ要否ニ關スル他ノ醫師ノ意見ヲ聽取シ且命令ノ定ムル所

ニ依リ豫メ警察署長ニ届出ツベシ但シ特ニ急施ヲ要スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ
警察署長必要ト認ムルトキハ前項ノ意見ヲ聽取スベキ醫師ヲ指定スルコトヲ得

第一項但書ノ規定ニ依リ届出ヲ爲サズ又ハ他ノ醫師ノ意見ヲ聽取セズシテ生殖ヲ不能ナラシムル手術若ハ放射線照射又ハ妊娠中絶ヲ行ヒタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ警察署長ニ其ノ旨届出ツベシ

第二十條 中央優生審査會及地方優生審査會ノ委員若ハ委員タリシ者又ハ優生手術ニ關スル調査、審査若ハ實施ノ事務ニ從事スル公務員若ハ公務員タリシ者故ナク其ノ職務上取扱ヒタルコトニ付知得タル人ノ祕密ヲ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ズ

第二十一條 第四條ノ規定ニ違反シ生殖ヲ不能ナラシムル手術又ハ放射線照射ヲ行ヒタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス因テ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ六月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第二十二條 第四條ノ規定ニ違反シ生殖ヲ不能ナラシムル手術又ハ放射線照射ヲ受ケタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 第三條ノ規定ニ違反シ又ハ第十四條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ依ラズシテ手術ヲ行ヒタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 第十四條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ依ラズシテ手術ヲ受ケタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條 第十七條又ハ第十九條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

國民優生法案

國民優生法

第一條 本法ハ惡質ナル遺傳性疾患ノ素質ヲ有スル者ノ増加ヲ防遏スルト共ニ健全ナル素質ヲ有スル者ノ増加ヲ圖リ以テ國民素質ノ向上ヲ期スルコトヲ目的トス

第二條 本法ニ於テ優生手術ト稱スルハ生殖ヲ不能ナラシムル手術又ハ處置ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノヲ謂フ

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル疾患ニ罹レル者ハ其ノ子又ハ孫醫學的經驗上同一ノ疾患ニ罹ル虞特ニ著シキトキハ本法ニ依リ優生手術ヲ受クコトヲ得但シ其ノ者特ニ優秀ナル素質ヲ併セ有スト認メラルルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一 遺傳性精神病

二 遺傳性精神薄弱

- 三 強度且惡質ナル遺傳性病的性格
- 四 強度且惡質ナル遺傳性身體疾患
- 五 強度ナル遺傳性畸形

四親等以内ノ血族中ニ前項各號ノ一ニ該當スル疾患ニ罹レル者ヲ各自有シ又ハ有シタル者ハ相互ニ婚姻シタル場合(届出ヲ爲サザルモ事實上婚姻關係ト同様ノ事情ニ在ル場合ヲ含ム)ニ於テ將來出生スベキ子醫學的經驗上同一ノ疾患ニ罹ル虞特ニ著シキトキ亦前項ニ同ジ

第一項各號ノ一ニ該當スル疾患ニ罹レル子ヲ有シ又ハ有シタル者ハ將來出生スベキ子醫學的經驗上同一ノ疾患ニ罹ル虞特ニ著シキトキ亦第一項ニ同ジ

第四條 前條ノ規定ニ依リ優生手術ヲ受クルコトヲ得ル者ハ優生手術ノ申請ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ本人配偶者(届出ヲ爲サザルモ事實上婚姻關係ト同様ノ事情ニ在ル者ヲ含ム以下之ニ同ジ)ヲ有スルトキハ其ノ配偶者ノ同意ヲ、二十五歳ニ達セザルトキ又ハ心神耗

弱者ナルトキハ其ノ家ニ在ル父母(婚姻ニ依リ其ノ配偶者ノ家ニ入りタル者ニ在リテハ其ノ配偶者ノ父母トス以下之ニ同ジ)ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

前條ノ規定ニ依リ優生手術ヲ受クルコトヲ得ル者心神喪失者ナルトキハ優生手術ノ申請ハ前項ノ規定ニ拘ラズ其ノ家ニ在ル父母之ヲ爲スコトヲ得但シ本人配偶者ヲ有スルトキハ其ノ配偶者及其ノ家ニ在ル父母之ヲ爲スコトヲ得

第一項及前項但書ノ場合ニ於テ其ノ配偶者知レザルトキ又ハ其ノ意思ヲ表示スルコト能ハザルトキハ第一項ノ場合ニ在リテハ其ノ家ニ在ル父母ノ同意ヲ以テ配偶者ノ同意ニ代ヘ前項但書ノ場合ニ在リテハ其ノ家ニ在ル父母ノミニテ申請ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

前三項ノ規定ニ依リ其ノ家ニ在ル父母ノ同意ヲ要ストセラレ又ハ其ノ家ニ在ル父母ガ申請ヲ爲ス場合ニ於テ父母ノ一方が知レザルトキ、死亡シタルトキ、家ヲ去リタルトキ又ハ其ノ意思ヲ表示スルコト能ハザルトキハ他ノ一方ノミノ同意又ハ申請ヲ以テ足り父母共ニ知レ

ザルトキ、死亡シタルトキ、家ヲ去リタルトキ又ハ其ノ意思ヲ表示スルコト能ハザルトキハ後見人ノ、後見人知レザルトキ、ナキトキ又ハ其ノ意思ヲ表示スルコト能ハザルトキハ戸主ノ、戸主知レザルトキ、未成年者ナルトキ又ハ其ノ意思ヲ表示スルコト能ハザルトキハ親族會ノ同意又ハ申請ヲ以テ父母ノ同意又ハ申請ニ代フルモノトス但シ後見人及親族會ハ第二項ノ規定ニ依ル申請ヲ爲スコトヲ得ズ

第五條 第三條第一項ノ規定ニ依リ優生手術ヲ受クルコトヲ得ル者ニ對シ監護上ノ處置、保護上ノ指導又ハ診療ヲ爲シタル精神病院法ニ依ル精神病院(同法第七條ノ規定ニ依リ代用スル精神病院ヲ含ム)若ハ保健所ノ長又ハ命令ヲ以テ定ムル醫師ハ本人ノ同意ヲ得テ優生手術ノ申請ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ本人配偶者ヲ有スルトキハ其ノ配偶者ノ同意ヲモ、二十五歳ニ達セザルトキ又ハ心神耗弱者ナルトキハ其ノ家ニ在ル父母ノ同意ヲモ得ルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ優生手術ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テ本人心神喪失者ナルトキハ其ノ家ニ在ル父母ノ同意ヲ以テ本人ノ同意ニ代フルモノトス

前條第三項及第四項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六條 前條ノ規定ニ依リ優生手術ノ申請ヲ爲スコトヲ得ル者本人ノ疾患著シク惡質ナルトキ又ハ其ノ配偶者本人ト同一ノ疾患ニ罹レルモノナルトキ等其ノ疾患ノ遺傳ヲ防遏スルコトヲ公益上特に必要アリト認ムルトキハ同條ノ規定ニ依ル必要ナル同意ヲ得ルコト能ハザル場合ト雖モ其ノ理由ヲ附シテ優生手術ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第七條 優生手術ノ申請ハ命令ノ定ムル所ニ依リ地方長官ニ之ヲ爲スベシ

前項ノ申請ニハ本人ノ健康診斷書及遺傳ニ關スル調査書並ニ本人(本人心神喪失者ナルトキハ其ノ家ニ在ル父母トス但シ本人配偶者ヲ有スルトキハ其ノ配偶者及其ノ家ニ在ル父母トス)ガ優生手術ガ生殖ヲ不能ナラシムルモノナルコトヲ了知シタル旨ノ醫師ノ證明書ヲ

添附スベシ

第四條第三項及第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八條 地方長官ハ優生手術ノ申請ヲ受理シタルトキハ優生手術ヲ行フベキモノト認ムルヤ否ヲ決定ス

地方長官前項ノ決定ヲ爲サントスルトキハ豫メ地方優生審査會ノ意見ヲ徴スベシ

地方長官第一項ノ決定ヲ爲シタルトキハ第四條又ハ第五條ノ規定ニ依リ優生手術ノ申請ヲ爲スコトヲ得ル者及優生手術ノ申請ニ付同意ヲ得ルコトヲ要ストセラレタル者ニ之ヲ通知スベシ

第九條 前條第三項ノ規定ニ依リ通知ヲ受クベキ者ハ同條ノ決定ニ不服アルトキハ厚生大臣ニ之ヲ申立ツルコトヲ得

前項ノ申立ハ決定ノ通知ヲ受ケタル後(通知ヲ受ケザル者ニ付テハ決定アリタル後)三十日

ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

厚生大臣宥恕スベキ事由アリト認ムルトキハ前項ノ期限經過後ニ於テモ仍之ヲ受理スルコトヲ得

第十條 厚生大臣ハ前條ノ申立ヲ受理シタル場合ニ於テ申立ヲ理由ナシト認ムルトキハ之ヲ却下シ申立ヲ理由アリト認ムルトキハ地方長官ノ決定ヲ取消シ且優生手術ヲ行フベキモノト認ムルヤ否ヲ決定ス

厚生大臣前項ノ却下又ハ取消及決定ヲ爲サントスルトキハ豫メ中央優生審査會ノ意見ヲ徴スベシ

第八條第三項ノ規定ハ第一項ノ却下竝ニ取消及決定ニ之ヲ準用ス

第十一條 第四條又ハ第五條ノ規定ニ依リ優生手術ノ申請ヲ爲スコトヲ得ル者及優生手術ノ申請ニ付同意ヲ得ルコトヲ要ストセラレタル者ハ書面又ハ口頭ヲ以テ中央優生審査會又ハ

地方優生審査會ニ對シ事實又ハ意見ヲ申述スルコトヲ得

厚生大臣又ハ地方長官ハ中央優生審査會又ハ地方優生審査會ノ審査ノ爲必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ第三條ノ規定ニ依リ優生手術ヲ受クルコトヲ得ル者ヲシテ審査會ニ出頭ノ上事實ヲ申述セシメ又ハ醫師ノ健康診斷ヲ受ケシムルコトヲ得

第十二條 中央優生審査會及地方優生審査會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 優生手術ヲ行フベキモノト認ムル決定シタルトキハ第三條ノ規定ニ依リ優生手術ヲ受クルコトヲ得ル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ優生手術ヲ受クベシ

優生手術ハ厚生大臣又ハ地方長官ノ命ニ依リ命令ヲ以テ定ムル醫師命令ヲ以テ定ムル場所ニ於テ之ヲ行フ

前項ノ規定ニ依リ優生手術ヲ行ヒタル醫師ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ經過ヲ地方長官ニ報告スベシ

第十四條 優生手術ヲ行フベキモノト認ムル決定確定シタル場合ニ於テ本人妊娠中ナルトキハ第四條ノ規定ニ依リ優生手術ノ申請ヲ爲スコトヲ得ル者ハ同條ノ規定ニ依リ同意ヲ要ストセラレタル者ノ同意ヲ得テ其ノ決定ヲ爲シタル厚生大臣又ハ地方長官ニ對シ妊娠中絶ノ申請ヲ爲スコトヲ得

前項ノ申請ニ基キ厚生大臣又ハ地方長官妊娠中絶ヲ行フベキモノト決定シタルトキハ本人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ妊娠中絶ヲ受クベシ

前項ノ妊娠中絶ハ妊娠三月ヲ超ユルモノナル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ズ

前條第二項及第三項ノ規定ハ第二項ノ妊娠中絶ニ之ヲ準用ス

第十五條 優生手術又ハ前條ノ妊娠中絶ニ關スル費用ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第十六條 故ナク生殖ヲ不能ナラシムル手術又ハ放射線照射ハ之ヲ行フコトヲ得ズ

第十七條 第十三條又ハ第十四條ノ規定ニ依ル場合ヲ除クノ外醫師生殖ヲ不能ナラシムル手

術若ハ放射線照射又ハ妊娠中絶ヲ行ハントスルトキハ豫メ其ノ要否ニ關スル他ノ醫師ノ意見ヲ聴取シ且命令ノ定ムル所ニ依リ豫メ行政官廳ニ届出ヅベシ但シ特ニ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ届出アリタル場合ニ於テ行政官廳必要アリト認ムルトキハ其ノ指定シタル醫師ノ意見ヲ更ニ聴取セシムルコトヲ得

第一項但書ノ場合ニ於テ届出ヲ爲サズシテ生殖ヲ不能ナラシムル手術若ハ放射線照射又ハ妊娠中絶ヲ行ヒタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ニ届出ヅベシ

第十八條 第十六條ノ規定ニ違反シ生殖ヲ不能ナラシムル手術又ハ放射線照射ヲ行ヒタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第十九條 中央優生審査會及地方優生審査會ノ委員若ハ委員タリシ者又ハ優生手術若ハ第十

四條ノ妊娠中絶ニ關スル審査若ハ施行ノ事務ニ從事シ若ハ從事シタル公務員若ハ公務員タリシ者故ナク其ノ職務上取扱ヒタルコトニ付知得シタル人ノ祕密ヲ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ズ

第二十條 第十七條第一項又ハ第三項ノ規定ニ違反シ届出ヲ爲サズ又ハ虚偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

仰
裁

昭和十五年三月十一日

田内閣官房總務課長

貴
衆
兩
院
書
記
官
宛
(各通)

正誤通知

一、國民懷生法案印刷中

一頁 七行 「受クコト」ハ「受クルコト」ノ誤

國民優生法案

國民優生法

第一條 本法ハ惡質ナル遺傳性疾患ノ素質ヲ有スル者ノ増加ヲ防遏スルト共ニ健全ナル素質ヲ有スル者ノ増加ヲ圖リ以テ國民素質ノ向上ヲ期スルコトヲ目的トス

第二條 本法ニ於テ優生手術ト稱スルハ生殖ヲ不能ナラシムル手術又ハ處置ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノヲ謂フ

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル疾患ニ罹レル者ハ其ノ子又ハ孫醫學的經驗上同一ノ疾患ニ罹ル虞特ニ著シキトキハ本法ニ依リ優生手術ヲ受クコトヲ得但シ其ノ者特ニ優秀ナル素質ヲ併セ有スト認メラルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一 遺傳性精神病

二 遺傳性精神薄弱

三 強度且惡質ナル遺傳性病的性格

四 強度且惡質ナル遺傳性身體疾患

五 強度ナル遺傳性畸形

四親等以内ノ血族中ニ前項各號ノ一ニ該當スル疾患ニ罹レル者ヲ各自有シ又ハ有シタル者ハ相互ニ婚姻シタル場合(届出ヲ爲サザルモ事實上婚姻關係ト同様ノ事情ニ在ル場合ヲ含ム)ニ於テ將來出生スベキ子醫學的經驗上同一ノ疾患ニ罹ル虞特ニ著シキトキ亦前項ニ同ジ
第一項各號ノ一ニ該當スル疾患ニ罹レル子ヲ有シ又ハ有シタル者ハ將來出生スベキ子醫學的經驗上同一ノ疾患ニ罹ル虞特ニ著シキトキ亦第一項ニ同ジ

第四條 前條ノ規定ニ依リ優生手術ヲ受クルコトヲ得ル者ハ優生手術ノ申請ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ本人配偶者(届出ヲ爲サザルモ事實上婚姻關係ト同様ノ事情ニ在ル者ヲ含ム以下之ニ同ジ)ヲ有スルトキハ其ノ配偶者ノ同意ヲ、二十五歳ニ達セザルトキ又ハ心神耗

弱者ナルトキハ其ノ家ニ在ル父母(婚姻ニ依リ其ノ配偶者ノ家ニ入リタル者ニ在リテハ其ノ配偶者ノ父母トス以下之ニ同ジ)ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

前條ノ規定ニ依リ優生手術ヲ受クルコトヲ得ル者心神喪失者ナルトキハ優生手術ノ申請ハ前項ノ規定ニ拘ラズ其ノ家ニ在ル父母之ヲ爲スコトヲ得但シ本人配偶者ヲ有スルトキハ其ノ配偶者及其ノ家ニ在ル父母之ヲ爲スコトヲ得

第一項及前項但書ノ場合ニ於テ其ノ配偶者知レザルトキ又ハ其ノ意思ヲ表示スルコト能ハザルトキハ第一項ノ場合ニ在リテハ其ノ家ニ在ル父母ノ同意ヲ以テ配偶者ノ同意ニ代ヘ前項但書ノ場合ニ在リテハ其ノ家ニ在ル父母ノミニテ申請ヲ爲スコトヲ得ルモノトス
前三項ノ規定ニ依リ其ノ家ニ在ル父母ノ同意ヲ要ストセラレ又ハ其ノ家ニ在ル父母ガ申請ヲ爲ス場合ニ於テ父母ノ一方ガ知レザルトキ、死亡シタルトキ、家ヲ去リタルトキ又ハ其ノ意思ヲ表示スルコト能ハザルトキハ他ノ一方ノミノ同意又ハ申請ヲ以テ足り父母共ニ知レ

ザルトキ、死亡シタルトキ、家ヲ去リタルトキ又ハ其ノ意思ヲ表示スルコト能ハザルトキハ後見人ノ、後見人知レザルトキ、ナキトキ又ハ其ノ意思ヲ表示スルコト能ハザルトキハ戸主ノ、戸主知レザルトキ、未成年者ナルトキ又ハ其ノ意思ヲ表示スルコト能ハザルトキハ親族會ノ同意又ハ申請ヲ以テ父母ノ同意又ハ申請ニ代フルモノトス但シ後見人及親族會ハ第二項ノ規定ニ依ル申請ヲ爲スコトヲ得ズ

第五條 第三條第一項ノ規定ニ依リ優生手術ヲ受クルコトヲ得ル者ニ對シ監護上ノ處置、保健上ノ指導又ハ診療ヲ爲シタル精神病院法ニ依ル精神病院(同法第七條ノ規定ニ依リ代用スル精神病院ヲ含ム)若ハ保健所ノ長又ハ命令ヲ以テ定ムル醫師ハ本人ノ同意ヲ得テ優生手術ノ申請ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ本人配偶者ヲ有スルトキハ其ノ配偶者ノ同意ヲモ、二十五歳ニ達セザルトキ又ハ心神耗弱者ナルトキハ其ノ家ニ在ル父母ノ同意ヲモ得ルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ優生手術ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テ本人心神喪失者ナルトキハ其ノ家ニ在ル父母ノ同意ヲ以テ本人ノ同意ニ代フルモノトス

前條第三項及第四項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六條 前條ノ規定ニ依リ優生手術ノ申請ヲ爲スコトヲ得ル者本人ノ疾患著シク惡質ナルトキ又ハ其ノ配偶者本人ト同一ノ疾患ニ罹レルモノナルトキ等其ノ疾患ノ遺傳ヲ防遏スルコトヲ公益上特ニ必要アリト認ムルトキハ同條ノ規定ニ依ル必要ナル同意ヲ得ルコト能ハザル場合ト雖モ其ノ理由ヲ附シテ優生手術ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第七條 優生手術ノ申請ハ命令ノ定ムル所ニ依リ地方長官ニ之ヲ爲スベシ

前項ノ申請ニハ本人ノ健康診斷書及遺傳ニ關スル調査書並ニ本人(本人心神喪失者ナルトキハ其ノ家ニ在ル父母トス但シ本人配偶者ヲ有スルトキハ其ノ配偶者及其ノ家ニ在ル父母トス)ガ優生手術ガ生殖ヲ不能ナラシムルモノナルコトヲ了知シタル旨ノ醫師ノ證明書ヲ

添附スベシ

六

第四條第三項及第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八條 地方長官ハ優生手術ノ申請ヲ受理シタルトキハ優生手術ヲ行フベキモノト認ムルヤ否ヲ決定ス

地方長官前項ノ決定ヲ爲サントスルトキハ豫メ地方優生審査會ノ意見ヲ徵スベシ

地方長官第一項ノ決定ヲ爲シタルトキハ第四條又ハ第五條ノ規定ニ依リ優生手術ノ申請ヲ爲スコトヲ得ル者及優生手術ノ申請ニ付同意ヲ得ルコトヲ要ストセラレタル者ニ之ヲ通知スベシ

第九條 前條第三項ノ規定ニ依リ通知ヲ受クベキ者ハ同條ノ決定ニ不服アルトキハ厚生大臣ニ之ヲ申立ツルコトヲ得

前項ノ申立ハ決定ノ通知ヲ受ケタル後(通知ヲ受ケザル者ニ付テハ決定アリタル後)三十日

ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

厚生大臣宥恕スベキ事由アリト認ムルトキハ前項ノ期限經過後ニ於テモ仍之ヲ受理スルコトヲ得

第十條 厚生大臣ハ前條ノ申立ヲ受理シタル場合ニ於テ申立ヲ理由ナシト認ムルトキハ之ヲ却下シ申立ヲ理由アリト認ムルトキハ地方長官ノ決定ヲ取消シ且優生手術ヲ行フベキモノト認ムルヤ否ヲ決定ス

厚生大臣前項ノ却下又ハ取消及決定ヲ爲サントスルトキハ豫メ中央優生審査會ノ意見ヲ徵スベシ

第八條第三項ノ規定ハ第一項ノ却下竝ニ取消及決定ニ之ヲ準用ス

第十一條 第四條又ハ第五條ノ規定ニ依リ優生手術ノ申請ヲ爲スコトヲ得ル者及優生手術ノ申請ニ付同意ヲ得ルコトヲ要ストセラレタル者ハ書面又ハ口頭ヲ以テ中央優生審査會又ハ

七

地方優生審査會ニ對シ事實又ハ意見ヲ申述スルコトヲ得

厚生大臣又ハ地方長官ハ中央優生審査會又ハ地方優生審査會ノ審査ノ爲必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ第三條ノ規定ニ依リ優生手術ヲ受クルコトヲ得ル者ヲシテ審査會ニ出頭ノ上事實ヲ申述セシメ又ハ醫師ノ健康診斷ヲ受ケシムルコトヲ得

第十二條 中央優生審査會及地方優生審査會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 優生手術ヲ行フベキモノト認ムル決定確定シタルトキハ第三條ノ規定ニ依リ優生手術ヲ受クルコトヲ得ル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ優生手術ヲ受クベシ

優生手術ハ厚生大臣又ハ地方長官ノ命ニ依リ命令ヲ以テ定ムル醫師命令ヲ以テ定ムル場所ニ於テ之ヲ行フ

前項ノ規定ニ依リ優生手術ヲ行ヒタル醫師ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ經過ヲ地方長官ニ報告スベシ

第十四條 優生手術ヲ行フベキモノト認ムル決定確定シタル場合ニ於テ本人妊娠中ナルトキ

ハ第四條ノ規定ニ依リ優生手術ノ申請ヲ爲スコトヲ得ル者ハ同條ノ規定ニ依リ同意ヲ要ストセラレタル者ノ同意ヲ得テ其ノ決定ヲ爲シタル厚生大臣又ハ地方長官ニ對シ妊娠中絶ノ申請ヲ爲スコトヲ得

前項ノ申請ニ基キ厚生大臣又ハ地方長官妊娠中絶ヲ行フベキモノト決定シタルトキハ本人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ妊娠中絶ヲ受クベシ

前項ノ妊娠中絶ハ妊娠三月ヲ超ユルモノナル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ズ

前條第二項及第三項ノ規定ハ第二項ノ妊娠中絶ニ之ヲ準用ス

第十五條 優生手術又ハ前條ノ妊娠中絶ニ關スル費用ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第十六條 故ナク生殖ヲ不能ナラシムル手術又ハ放射線照射ハ之ヲ行フコトヲ得ズ

第十七條 第十三條又ハ第十四條ノ規定ニ依ル場合ヲ除クノ外醫師生殖ヲ不能ナラシムル手

術若ハ放射線照射又ハ妊娠中絶ヲ行ハントスルトキハ豫メ其ノ要否ニ關スル他ノ醫師ノ意見ヲ聴取シ且命令ノ定ムル所ニ依リ豫メ行政官廳ニ届出ヅベシ但シ特ニ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ届出アリタル場合ニ於テ行政官廳必要アリト認ムルトキハ其ノ指定シタル醫師ノ意見ヲ更ニ聴取セシムルコトヲ得

第一項但書ノ場合ニ於テ届出ヲ爲サズシテ生殖ヲ不能ナラシムル手術若ハ放射線照射又ハ妊娠中絶ヲ行ヒタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ニ届出ヅベシ

第十八條 第十六條ノ規定ニ違反シ生殖ヲ不能ナラシムル手術又ハ放射線照射ヲ行ヒタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第十九條 中央優生審査會及地方優生審査會ノ委員若ハ委員タリシ者又ハ優生手術若ハ第十

四條ノ妊娠中絶ニ關スル審査若ハ施行ノ事務ニ從事シ若ハ從事シタル公務員若ハ公務員タリシ者故ナク其ノ職務上取扱ヒタルコトニ付知得シタル人ノ祕密ヲ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ズ

第二十條 第十七條第一項又ハ第三項ノ規定ニ違反シ届出ヲ爲サズ又ハ虚偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

國民優生法案理由書

現下ノ時局ニ鑑ミ人的資源ヲ擴充強化シ國民將來ノ發展ヲ期スル爲ニハ惡質ナル遺傳性疾患ノ素質ヲ有スル者ノ増加ヲ防遏スルト共ニ健全ナル素質ヲ有スル者ヲ増加シ以テ國民素質ノ向上ヲ圖ル爲國民優生法ヲ制定スルノ要アリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ